

RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

DATASHEET

主な利点

- ・お客様の最新のイノベーションを迅速に市場に投入し、競争相手の一歩先を歩み続ける
- ・開発者やシステム管理者の業務遂行に必要なツールを提供して、アプリケーション開発を加速する
- ・特定のベンダーに縛られずに、セキュアなエンタープライズクラスのコンテナベースのプラットフォームを獲得する
- ・DevOps と部門全体のコラボレーションを可能にする

バージョン3.2の最新情報

- ・大規模なパフォーマンスの増加
- ・新規ツールやサービスにより、開発者経験を強化
- ・アプリケーションのアーカイブ（例：JavaEE アプリケーションの WAR ファイル）を利用した構築とデプロイを自動化
- ・Docker Registry の操作性と機能を向上
- ・Red Hat OpenShift Container Platform 用にあらかじめ設定されている Jenkins コンテナイメージの改良
- ・リソース管理とプラットフォーム制御の機能を向上

概要

Red Hat OpenShift Container Platform は、コンテナ型アプリケーションのビルド、デプロイ、管理をシームレスに実行可能なアプリケーションプラットフォームです。Red Hat OpenShift Container Platform の稼働環境には、物理、仮想、プライベートクラウドそしてパブリッククラウドなど、目的に合わせたプラットフォームを選択することが可能です。実績のあるオープンソーステクノロジーをコアの技術として採用した Red Hat OpenShift Container Platform は、ビジネスのニーズに迅速に対応できるようなアプリケーションプラットフォームを提供し、アプリケーション開発チームと IT 運用チームがアプリケーションの迅速な開発と新規サービスの提供ができるように支援します。

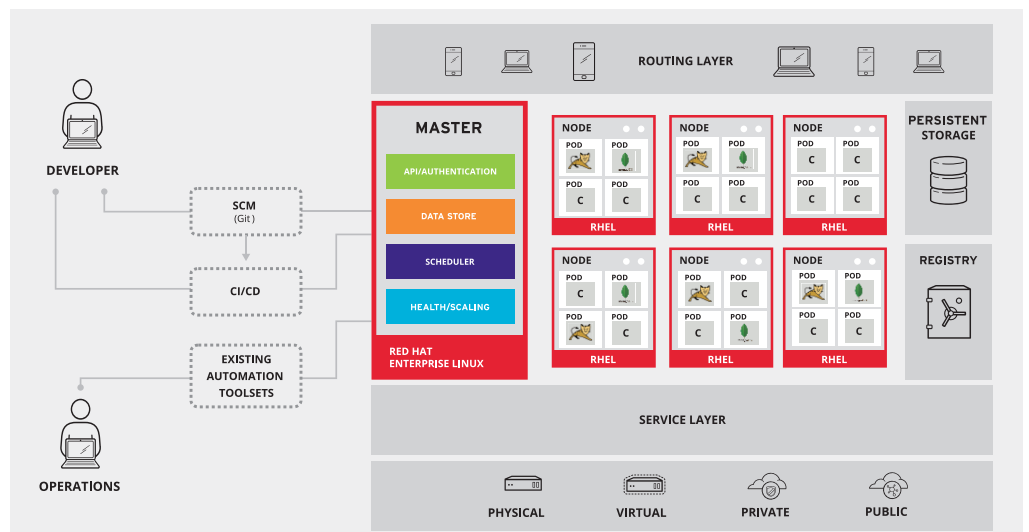
RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

アプリケーション開発チーム向け

Red Hat OpenShift Container Platform は、アプリケーションの実行環境のプロビジョニング、アプリケーションのビルドとデプロイをセルフサービスで実行できる最適なプラットフォームを提供します。アプリケーションのソースコードと実行環境を組み合わせた Docker Image を作成する Source to Image (STI) プロセスのような自動化されたワークフローによって、バージョンコントロールシステムで管理されたソースコードから、Docker のコンテナイメージを作成し実行することが可能です。Red Hat OpenShift Container Platform は、継続的インテグレーションと継続的デリバリーを可能とし、すべての開発チームにとって理想的なソリューションを提供します。

IT 運用向け

Red Hat OpenShift Container Platform は、ポリシーに基づく管理と自動化によって、セキュアなエンタープライズクラスのアプリケーションプラットフォームを提供します。Kubernetes を活用したコンテナのクラスタ管理、スケジューリング、オーケストレーションによって、負荷分散および自動スケーリングの機能を提供します。セキュリティ機能は、マルチテナントでの利用を想定したコンテナ間のネットワークを分離と、コンテナ内のプロセスからホスト OS への不正なアクセスを抑止する機能を提供します。そして、コンテナから永続ストレージを利用することで、ステートフルおよびステートレスなアプリケーションの両方をプラットフォームで実行することができます。



Red Hat が管理運用するパブリッククラウド環境である

Red Hat OpenShift Online
<openshift.com> で、次のことが可能となります。

- ・ Red Hat が運用、サポートするパブリッククラウドにおけるアプリケーションの迅速な構築、起動、ホスティング
- ・ 無料で登録してすぐに使える環境で、Red Hat OpenShift の優れた機能を体験

Red Hat が一社向けに管理運用する Red Hat OpenShift 環境である Red Hat OpenShift Dedicated によって管理されたパブリッククラウドを通して、お客様のビジネスに Red Hat OpenShift の力強さと柔軟性をもたらします。

OpenShift Container Platform の機能

機能	利点
セルフサービス・プロビジョニング	運用者が基盤の管理をしながらも、利用者である開発者は素早く、簡単に、必要な時に実行環境をセルフサービスで入手可能です。
永続ストレージ	通常、コンテナ実行中にコンテナ内に保存したデータはコンテナを停止すると消えてしまいます。Red Hat OpenShift Container Platform ではコンテナ実行中にデータを永続ストレージに保存することで、コンテナ停止後もデータを保持することができ、コンテナを再起動した際と同じデータを参照することができます。永続ストレージを利用することで、ステートレスなアプリケーションだけでなく、ステートフルなアプリケーションも実行可能です。
他言語サポート	開発者は、同じプラットフォームで様々な言語、複数のフレームワークやデータベースを利用可能です。
自動化	アプリケーションのビルド、デプロイの自動化、コンテナのメトリクスに基づくオートスケーリング、コンテナのクラスタ管理の機能により、標準化された基盤での管理運用の自動化が実現できます。
ユーザーインターフェース	CLI(Command Line Interface)、Web アプリケーションとして提供される管理コンソールまた、Red Hat JBoss Developer Studio のような Eclipse ベースの IDE から Red Hat OpenShift Container Platform 環境にアクセスし、操作することが可能です。
ビルドインの運用管理機能	プラグインを利用することで、コンテナが利用している CPU やメモリのメトリクスを、OpenShift の Web ベースの管理コンソールから参照することが可能です。
コラボレーション	複数のユーザーで、プロジェクト (*1) を共有してアプリケーションの管理をすることが可能です。 (*1) プロジェクトは Kubernetes の Namespace を拡張した概念で、Red Hat OpenShift Container Platform で利用するオブジェクトやリソースをまとめる論理的な単位
拡張性	Red Hat OpenShift Container Platform で実行されるアプリケーションは、スケールアウトによって高負荷にも対処することが可能です。
堅牢なエコシステム	Red Hat のパートナーエコシステムにより、様々な永続ストレージや、プラグイン可能なネットワークソリューションを選択することが可能です。
コンテナの可搬性	Red Hat OpenShift Container Platform で利用可能な Docker コンテナは、Docker のランタイムをサポートしている環境であれば、どこでも利用可能です。
オープンソース	Docker と Kubernetes を活用した Red Hat OpenShift Container Platform を利用することで、ユーザーはオープンソースの自由を享受し、特定のベンダーの技術やビジネスロードマップに制限されることはありません。
クラウドの選択	Red Hat OpenShift Container Platform の実行環境は、物理、仮想、パブリッククラウド、プライベートクラウドから自由に選択することが可能です。



facebook.com/RedhatJapan
twitter.com/RedHatJapan

レッドハット株式会社

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 4-1-18 恵比寿ネオナート
TEL : 03-5798-8500 (代表)
http://www.jp.redhat.com

製品・サービスについてのお問い合わせ

セールスオペレーションセンター (SOC)
TEL : 0120-266-086 受付時間 9:00 ~ 17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)
携帯電話からは 03-5798-8510
E-mail : sales-jp@redhat.com